

## 令和4年度 第1回博物館協議会 議事録

日時：令和4年6月28日（火）14：00～15：45

場所：八戸市博物館 2階 体験学習室

### 出席委員：8名

（会長） 工藤 竹久  
（副会長） 滝尻 善英  
元沢 弘志  
有馬 克美  
川口 桂子  
正部家 朱美  
鳶川 誠  
磯沼 チヨ

### 事務局：8名

伊藤 博章 （教育長）委嘱状交付後退席  
小保内 裕之 （博物館館長）  
下村 恒彦 （博物館副館長）  
竹洞 一則 （資料館館長）  
米田 司 （博物館主査）  
市川 健夫 （博物館主査兼学芸員）  
野沢 江梨華 （博物館主査兼学芸員）  
中尻 貴之 （資料館主査兼学芸員）

### 次第

- 1 委嘱状交付
- 2 開会
- 3 教育長挨拶
- 4 会長挨拶
- 5 案件
  - （1）令和3年度事業実施報告について
  - （2）令和4年度事業計画について
  - （3）その他

※1～4省略

## 5 案件（1）令和3年度事業実施報告 質疑応答

（事務局説明後、質疑応答）

<博物館分>

（工藤会長）

ただ今、事務局より年報に基づいて令和3年度の事業について報告いただきましたが、委員の皆様から確認したいことがありましたら、ご意見をお願いします。

（川口委員）

年報15ページの「夏休み！寺子屋はちはく」について、イベントの内容と、参加者からどのような感想が出ていたか教えていただければと思います。

（事務局）

寺子屋はちはくは、小学生と中学生を対象としたもので、昔の暮らしの体験、縄文土器や日本刀の解説など、私たちが学校を対象に行っている体験学習とほぼ同じ内容になります。

参加した親御さんからは「夏休みの宿題に役立った」「来年は別のプログラムに参加してみたい」などといった意見をいただいております。

（工藤会長）

ありがとうございます。テーマの設定には地元と絡めたものを設けてみるのも面白いと思いますね。

（正部家委員）

年報9ページに「えと限定！ぬいぐるみおとまり会」の様子が載っています。このイベントはぬいぐるみが泊まるのですか、それとも子どもたちが泊まるのでしょうか。内容を把握できていないので教えていただければ。

（事務局）

参加者にその年の干支に因んだぬいぐるみを持ってきていただき、そのぬいぐるみが博物館に泊まるというイベントになります。イベントの様子を写真に収め、スクラップブックにして参加したお子さんたちに渡したり、ホームページやSNS上で公開したりしています。

（正部家委員）

子どもたちのお泊り会なのかなと思っていましたけど、そうではないのですね。今の説明で内容が分かりました。

(工藤会長)

何かもう一工夫あると、もうちょっと楽しくなるかもしれないですね。他に何かございませんか。

(有馬委員)

寅年には虎舞の実演をしたり、虎舞の歴史を紹介する講座などを開催するのはいかがでしょうか。

(工藤会長)

寅年までにはちょっと間がありますけども、今の意見のように何か一工夫してもらえると更に良くなるような感じがします。

(有馬委員)

史跡根城の広場に関する所感です。市内には広場ほど管理が行き届き、季節ごとの草花が楽しめる場所はありません。広場の持つ優れた点を市内外にしっかりとPRしていただければと思っています。

(工藤会長)

コロナが落ち着いたら積極的にPRしてをいただければよろしいですね。

私から年報18ページにある報告書「糠塚不動尊」について質問です。これは何年かかって完成したものでしょうか。結構、時間が掛かりましたね。

(事務局)

事業着手から15年ほどかけて完成しました。

(工藤会長)

何とか完成に至ったということかと思います。やはり博物館としては結構な負担だったのでしょうか。

(事務局)

正直なところ大きな負担でした。当初、社会教育課や市史編纂室なども作成に関わっていたのですが、次第に手が離れ、最終的には博物館が単独で取り組んでおりました。

報告書の完成後に報告会のようなものを開催したいという目標もあったのですが、人手が足りず断念しております。

<南郷資料館分>

(有馬委員)

年報 26 ページ「クジラについて学ぼう！クジラ博士の出張授業」では、日本鯨類研究所、後藤先生の講演会を開いていますが、残念なことに参加者はわずか9名だけでした。海に関連する講演会でしたので、マリエントを会場に「ちきゅう」たんけんクラブの子どもたちを招待してもよかったのではと感じていますが、担当者はどのように考えますか。

(事務局)

やはり南郷歴史民俗資料館の事業ですので、できれば南郷で行いたいというのが率直な気持ちです。資料館に隣接する大きな会場も確保できましたので、今回はこの場所を会場に講演会を開催した次第です。いただいた意見に関しては、今後の参考させていただきたいと思います。

(工藤会長)

これは判断が分かれるところですね。南郷から捕鯨に出た人たちの歴史を取り上げたいというのが担当者の思いだと思いますから、地元で開催したいというのも一つの考えだと思います。いろいろな可能性を探りながら、検討してもらえればと思います。有馬委員が一生懸命取り組まれた鯨の肉が食べられなくて残念でした。

(有馬委員)

代わりに鯨の調理方法に関する動画をホームページ上で公開されていたので、その点はよかったと思っています。展示にも鯨の解体作業を取材した動画が紹介されておりましたし、小さい会場ながら工夫してやっているなと感心しておりました。

(工藤会長)

その他、意見・質問などがなければ次の案件に移って行ってよろしいでしょうか。

## 5 案件（2）令和4年度事業計画について 質疑応答

（事務局説明後、質疑応答）

<博物館分>

（工藤会長）

令和4年度の事業計画について事務局から説明がありましたが、委員の皆様から何かご意見があれば発言をお願いします。

（有馬委員）

（特別展「ナゲモノ拾いから始まった」のタイトルについて）ナゲモノという言葉から海洋ごみを連想しますが、このタイトルはどういった趣旨でつけられたものでしょうか。

海洋ごみに関して言うと、近年、海岸漂着ごみが問題になっていると思います。大久喜地区では昔から地域の住民が積極的に海岸の清掃活動をしてきたということもどこかで紹介していただいて、今後お手伝いしたいという人が増えるような機運を盛り上げてもらえれば嬉しいなと思っています。本来の趣旨からはちょっと外れるかもしれませんが、参考までに。

（工藤会長）

ナゲモノといった表現に誤解があるように思いますので、保存会の活動状況がどうなっているかという点も含めて事務局よりご説明をお願いします。

（事務局）

高度経済成長期の後半、昭和30年代から40年代にかけての話になりますが、経済の発展とともに漁具、漁法、漁をする組織も変わっていきました。こうした変化の中で、不要になった物がどんどん捨てられていったのですが、地元の方々から次第に「これでいいのだべか」、「このまま投げてしまえば何も残らなくなる」といった声が出るようになり、昭和47年に漁撈用具の保存活動が始まった、これが保存会の始まりです。ナゲモノというタイトルはそのような時代的背景を踏まえてつけたものになります。

保存会は、現在、会員の高齢化といった問題を抱えていて、かつてのように活用事業を行うことができなくなっております。他方、保存事業については博物館と委託契約を結び、協力いただいているところです。

（工藤会長）

浜小屋は津波の浸水区域に入っておりますので、いずれ浸水のおそれがない場所を探していかなければならないと思います。短期間では難しいことですが、継続して取り組んでほしいと思います。他に何かございませんでしょうか。

(磯沼委員)

石橋忠三郎さんが講師を務める博物館クラブ「ガラス工作に挑戦！」の内容について教えていただければと思います。

(事務局)

この講座は、主に小中学生向けのもので、講師が持参した様々な形のガラスのパーツを用いて参加者が自由にガラス工作を作るといった内容になっております。

(磯沼委員)

対象は小学生や中学生で、一般の方は対象じゃないということですか。

(事務局)

そうです。

(磯沼委員)

はい、分かりました。

(工藤会長)

資料4ページの博図連携「市民のための歴史講座」についてです。今回はじめて博物館と図書館が連携して歴史講座を開催するというのですが、この開催方法についてお知らせください。

(事務局)

これまで図書館、博物館が別々に歴史講座を開催しておりましたが、あらかじめテーマを統一したうえ、博物館で2回、図書館で2回それぞれ開催します。

(工藤会長)

蔦川委員、何かございますか。

(蔦川委員)

事務局の説明を伺って、工夫しながら様々なイベントを開催していることに感心しております。博物館の事業を授業で活用できないものかと考えておりましたが、例えば博物館に収蔵する文化財を学校に持ってきて説明するような授業はよいのではないかと考えています。生徒は普段、文化財に触れる機会がありませんので、実物を間近で見られる機会をつくれれば非常に有効だと考えて

おります。

また、最近の子どもたちは、普段からSNSを使っていますので、動画の教材があれば伝わりやすいと思います。小学生や中学生に向けた分かりやすい動画の教材があれば、学校現場で活用できるだろうなと思っております。

(工藤会長)

確かに小学生や中学生は博物館に来てあまりパネルの記事を読んでいませんからね。学校現場の先生から意見がありましたので、これについて事務局からどうぞ。

(事務局)

八戸市博物館の歴史をひも解くと、開館当初の館長や副館長には学校現場を経験された方が多数就いていました。市では博物館の運営を学校教育と連携しながら進めていこうという考えがあったものと考えています。

蔦川委員が述べられた出前授業については、既に縄文館や博物館でもメニューを用意していて、学校側にたびたびお知らせをしているのですが、なかなか問い合わせをいただいているのが現状です。

授業のプログラムは総合教育センターである程度作られるということですので、同センターの指導主事と連携したり、以前のように博物館に教員を入れるといった方法でもよいのですが、いずれにせよ今一度学校とどのような連携ができるのか検討する必要があると考えています。今の意見は大変参考になりましたので、今後教育長に報告して前に進めたいと考えております。

(蔦川委員)

物によるとと思いますが、資料を持って学校に出かけるというのは、できるのでしょうか。

(事務局)

特に問題はありません。

(工藤会長)

多分そのようなことも学校現場に伝わっていないのではないかと思いますので、これから少しずつ進めていければと思います。他に何かございますか。

(有馬委員)

コロナで休館している間、オンラインで博物館の展示物を紹介できるような動画を作れないかと提案したことがありましたが、先日、市の動画チャンネルで根城をドローンで撮影した映像を見ました。短い動画であれば、市民にも

伝わりやすいですし、蔦川委員が述べたような授業での活用にも活かせるのではないのでしょうか。

話題が変わって、前回の協議会で、八戸市美術館は市内や三八管内の小中学生の入館料を無料としていることを取り上げておりましたが、その後、縄文館などとの入館料の調整はいかがでしたでしょうか。

(事務局)

八戸市美術館に確認したところ、入館料を条例に規定しておらず、展覧会ごとに入館料を設定していることが分かりました。つまり美術館と教育委員会は別方針でやっているということになります。

このことを踏まえ、是川縄文館、児童科学館など教育委員会内の施設でどのように入館料の整合を図るか検討段階です。

(磯沼委員)

資料4ページのおとなの博物館クラブ「資料の取扱方法」とあるのですが、これはどういった目的をもって企画したものでしょうか。

(事務局)

多くの方は博物館に収蔵する資料に触れたことがあまりないと思いますので、資料の取扱方法を説明しながら、昔の資料に親しんでもらうことを目的に開催しております。今年は掛軸、巻物をテーマにしておりますが、毎年テーマは変えて実施しております。

(磯沼委員)

生活の中で巻物とか掛軸を取り扱うことが少なくなったのでそこを体験してもらいましょうというのが狙いですね。

(工藤会長)

次、元沢委員お願いします。

(元沢委員)

広場の本丸内のトイレについてです。当時のトイレがどういったものだったか説明があってもよいのではないかと考えています。

(工藤会長)

本丸内のトイレの説明をもう少し充実してほしいという要望でした。その他質問や意見はございますか。

(川口委員)

広場のしだれ桜についてです。春になると広場内に 155 本ものしだれ桜が咲きますが、PR 次第では今後新たな名所になるのではないのかと思っています。

しだれ桜のすばらしさを単に市民に周知するだけでなく、身延山との歴史的つながりなどを解説板で PR することもあってもよいかと思えます。

(工藤会長)

広場のしだれ桜は身延山とつながりがないというのが通説のようですのでむずかしいと思いますが、いずれにせよ市民には分かりやすいような感じで伝わったらいいと思います。今日の資料に直接関係がないことでも何か質問や意見がありましたらご発言をお願いいたします。

(有馬委員)

滝尻副会長もご尽力された「はちのへヒストリア」というのがありますが、博物館のホームページにリンクを貼ってもらうとより周知できると考えています。早速対応いただければと思います。

(工藤会長)

その他に何かございませんか。

(滝尻副会長)

事務局の説明や資料を見聞きし、私はすごいなと思っています。まず突っ込みどころがない。今いくつか質問が出ましたが、そうした質問も博物館のホームページを見ればたいていは分かることです。学芸員は休む暇なく、特別展・講座などの準備に頑張っている。10 年、20 年前の博物館に比べて本当にすごいなと思っています。

年報 18 ページには刊行物一覧が載っていますが、1 年でこれだけの刊行物を出しています。一冊だけでも大変なのに我々市民のニーズに応えてもらっている。

南郷はクジラの村ですね。これも内容がユニークで、興味深い。今年はペーパーアーティストの太田隆司さんと呼んでということですが、毎度アイデアや着眼点が素晴らしいなと思って感心しています。

これほどさまざまな企画をこなしていると心配になってくるのは学芸員の業務的な負担のことです。協議会委員から様々な意見や要望が出ていますが、昨今、働き方改革が叫ばれておりますので、対応は程々でもよいかと思えます。

意見を述べる私たち委員の方も普段から博物館のホームページに目を通し、知識を得てからこの場に立つように心掛けるべきだと思います。

あと、はちのへヒストリアですね。これは私たちではなく、是川縄文館、博物館、図書館、社会教育課などの学芸員が作っているものです。みんなで作り上げているものなので、ホームページにリンクしていただければと思います。

(工藤会長)

あとは何かございましたでしょうか。時間もだいぶ経ってまいりましたので、なければ本日の案件をこれまでとします。それでは進行を事務局にお返しします。(以下、事務連絡等)